



研究主題

未来を拓く力を育むキャリア教育のあり方

主な活動

教育センターの夏季研修において、市内の先生方にこれまでの実践を広め、千葉市全体のキャリア教育の充実を図っています。

小・中学校で授業研究を行い、日々の授業でキャリア教育をどのようにとりあげていくか、検討を重ねています。

R5 授業実践①（小学校 5年）

- 1.授業の実際 授業校 千葉市立おゆみ野南小学校
- (1) 主題名 本当の自由
- (2) 教材名 「うばわれた自由」(日本文教出版)
- (3) 本時のねらい
- ・自分の自由も相手の自由も尊重し、調和のとれた自由を大切にしようとする態度を養う。 【道德の視点】
 - ・集団生活において、周囲の人のことを考えて振る舞ったり、自らの言動を律したりすることが大切だと分かる。 【キャリア教育の視点】
- (4) 本時の展開

過程	学習活動と内容	教師の支援 (○) 評価 (◆)
導入	1 本時のキャリアの力について知る。	○4つの力を示した掲示物とキャリアマークを活用し、本時のねらいを掴んで学習に臨むことができるようにする。
展開	2 自由のイメージのイラストを見て、自由に対する考えを共有する。	○イラストを基に考えていくことで、自由の価値観を揃えることができるようにする。
	3 範読を聞き、ジェラル王子の気持ちについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> したいことをしたいようにするジェラル王子の気持ちがわかる。 </div> 【賛成】 ・好きなことができないと、つまらない。 【反対】 ・何をしてもいいわけではない。	○物語の前半の部分だけのプリントを配布し、ジェラル王子の自由に共感できるか考えさせる。 ○身勝手はよくないと分かりつつも自由を楽しみたいと思っている気持ちに寄り添う側と身勝手はよくないと考える側に分かれて意見を出し合うことで、ジェラル王子の行為の基になった心を探ることができるようにする。
終末	4 本当の自由とは何か考える。 ◎ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> いい自由と悪い自由の境界線 (違い) はなんだろう。 </div>	○本当の自由とは何か探るための問い返しを多く用意し、本時の主題に迫れるようにする。
	5 本時を振り返る。	○①これまでの考え、②今日の学び、③これからの生き方の流れで振り返ることで、将来への展望を書けるようにする。 ◆自分の自由も、相手の自由も尊重し、調和のとれた自由を大切にしようとしている。 (道徳的実践意欲と態度) (発言、ノート) ◆集団生活において、周囲の人のことを考えて振る舞ったり、自らの言動を律したりすることが大切だと理解している。 (人間関係・社会形成能力) (発言・ノート)

2.成果と課題

- イラストを用いた導入により、子どもたちのいろいろな視点からの「自由」に迫ることができていた。
- 普段の積み重ねにより話す習慣がついており、自分の意見を付度なく発言し合うことができていた。
- 賛成か反対かの二択であったが、中間の立場を用いていれば、さらに議論に深まりがでた。
- 振り返りの時間がもっとあれば、さらにキャリア教育の視点での変容が見られたのではないかと。

～授業のようす～



R5 授業実践②（中学校 2年）

1.授業の実際 授業校 千葉市立稲毛中学校

(1) 単元名 「ひな社長の挑戦」
アントレプレナーシップ教育の実践（職業や自己の将来に関する課題）

(2) 本時の目標

- ・起業模擬体験を通して、自分の職業観や勤労観を拓げ、社会参画の考えをもととする。
【主体的に学習に取り組む態度】 ☆自己理解・自己管理能力
- ・起業模擬体験を通して、他者と自分の考えを交流しながらアントレプレナーシップを発揮する。
【思考・判断・表現】 ☆人間関係形成・社会形成能力

(3) 本時の展開
本時は2時間展開の後半部分にあたる。前時にはシミュレーション教材（ひな社長の挑戦）で起業の流れを模擬体験し、事業内容を検討している。

過程	学習活動と内容	教師の支援（○） 評価（◆）
導入	1 1時間目の内容を確認する。	○ストーリーの舞台設定や登場人物、事業内容を考えるに至った経緯を確認する。
展開	2 事業内容を検討し、グループで発表準備を行う。 ・4人で発表する項目の役割分担をする。 ・2分間でリハーサルを行う。	○班の4人でどの項目を発表するか役割分担をさせ、全員が携われるようにする。 ○完成した事業計画書の写真をテレビに表示することで、クラスで共有できるようにする。
	3 グループ発表をする。 ・他グループの発表を聞き、自分のグループの発表内容と比較する。 ・授業者からフィードバックを受ける。 ・グループ発表を自己評価する。	○授業者からのフィードバックの観点 (1)虹が崎市の三大問題のどれを解決しようとしているのか。 (2)アイディアの独創性や事業の決定理由の根拠に関する他グループとの比較
終末	4 まとめ ・シミュレーション教材のアニメを視聴し、「ひな社長」が決定した企業やその理念、ツアーを考えるために、聞き込みに行くことを知る。 ・授業者の話聞く。 ・キャリア学習ふり返しシートに学習記録をまとめる。 ・本単元の感想を発表する。	○授業者の話の観点 ・「仕事」「職業」という言葉は聞いた事があったかもしれないが、「起業」「事業」も職業選択の一つであることを知ってほしい。 ・会社に勤めたとしても、そこでは「事業」を行なっていて、それは誰かのためのものだったり、社会の抱える問題を解決するためのものだったりする、という視点をもって（今後の）職業講話を受けてほしい。 ◆起業模擬体験を通して職業観や勤労観を拓げ、社会参画の考えをもととしている。 (机間巡視、ふり返しシート)

2.成果と課題

○総合的な学習の時間の教師の役割は「しかけ」をつくることで、今回の「ひな社長の挑戦」は起業や事業の意味を知りながら考えることができるものだったので、よいしかけとなっていた。

●もう少し事業提案に遊びをもたす言葉かけをするなど、生徒がさらにアントレプレナーシップを発揮できる場面があるとよかった。

～授業のようす～

ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアムの方々にご協力いただきました。

